

安全データシート(SDS)

作成日:2016 年 5 月 30 日

改訂日:2026 年 9 月 17 日

1. 製品及び会社情報

製品名 : ダイヘンナチュラルクーラント
部品番号 : 100-2692
会社名 : 株式会社ダイヘン
住所 : 〒658-0033 兵庫県神戸市東灘区向洋町西4丁目1番
担当部門 : 溶接・接合事業部 品質管理部
電話番号 : 078-275-2009
FAX 番号 : 078-845-8186
緊急連絡先 : 担当部門に同じ
推奨用途 : 溶接用不凍液
使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は、専門家の判断を仰ぐこと

2. 危険有害性の要約

GHS 分類

健康に関する有害性

急性毒性(吸入:粉塵、ミスト) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2
特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分1
特定標的臓器毒性(単回暴露) : 区分3(麻酔作用、気道刺激性)
※ 記載のないものは「分類対象外」または「区分に該当しない」、「分類出来ない」

GHS ラベル要素

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 危険

危険有害性情報

吸入すると有害
重篤な皮膚の薬傷および眼の損傷
皮膚刺激
強い眼刺激
臓器の障害
呼吸器への刺激のおそれ
眠気またはめまいのおそれ

注意書き

安全対策

粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入をしないこと。
取扱後は、手や使用した道具をよく洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面/聴覚保護具/など適切な保護具を着用すること。
取扱後は手や使用した道具をよく洗うこと。眼には触らないこと。

応急措置

吸入した場合:空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合:多量の水と石鹸で洗うこと。
皮膚刺激が生じた場合:医療処置を受けること。

汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

眼の刺激が続く場合:医療処置を受けること。

眼に入った場合:水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

医療処置を受けること。

気分が悪い時は、医療処置を受けること。

特別な処置が緊急に必要である(このラベルの応急処置および SDS を見よ)。

特別な処置が必要である(このラベルの応急処置および SDS を見よ)。

ばく露またはその懸念がある場合:すぐに救急の医療処置を受けること。

保管・廃棄

施錠して保管すること。

換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。

内容物を使い切り、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

他の危険有害性

情報なし

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別 : 混合物

組成及び成分情報

化学名又は一般名	CAS No.	含有量(wt%)	安衛法	化管法	毒劇法	化審法
エチレングリコール	107-21-1	30～40	表示・通知 対象	非該当	非該当	2-230

注) 安衛法 労働安全衛生法に基づく表示・通知対象物質

化管法 特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律
(PRTR 法)の指定化学物質の管理番号

毒劇法 毒物及び劇物取締法

化審法 化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の官報公示整理番号

4. 応急措置

大量に吸入した場合

- ・吸入をして気分の悪くなった場合は、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- ・呼吸していて嘔吐がある場合は頭を横向きにする。
- ・呼吸に関する症状が出た場合には、医師に連絡すること。
- ・気分の戻らない時は、医師の診断を受けること。
- ・呼吸が弱い場合は人工呼吸や酸素吸入を行う。
- ・意識のない被災者には何も飲ませてはならない。
- ・上記症状が出た場合、直ちに医師の診断を受けること。

皮膚に付着した場合

- ・直ちに水で洗い流し、石鹼で液が付着したところをよく洗うこと。
- ・衣服等に付着した場合は脱いで、皮膚に付着した部分を石鹼でよく洗うこと。
- ・直ちに、汚染された衣類をすべて取り除くこと。皮膚を流水で洗うこと。
- ・皮膚刺激または手荒れや発疹・水泡などが生じた場合は、直ちに医師の診断を受けること。
- ・この製品は引火性なので、火気に注意して措置する。
- ・気分が悪くなった場合は、医師の診断を受けること。
- ・汚染した衣類を再使用する場合は洗濯してから使用すること。

目に入った場合

- ・直ちに清浄な水で15分以上洗眼する。
- ・清浄な水で最低15分間目を洗浄する。洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたのすみずみまで水がよく行きわたるように洗浄する。
- ・コンタクトレンズを使用している場合は、固着していないかぎり、取り除いて洗浄を続ける。
- ・眼の刺激が続く場合は医師の手当てを受けること。
- ・激しい痛みがある場合は、直ちに医師の診断を受ける事。

飲み込んだ場合

- ・万一飲み込んだ場合、口をすすいでください。無理に吐かせずに、直ちに医師の診断を受けること。意識のない場合、何も与えないこと。
- ・子供などが飲み込んだ懸念がある場合、直ちに医師の診断を受けること。
- ・被災者に意識の無い場合は、口から何も与えてはならない。
- ・必要に応じて、人工呼吸や酸素吸入を行う。医師に製品ラベルもしくは、SDSをみせる事。
- ・呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で、人工呼吸を行うが、その前に口の中に残っているものをぬぐったりしてよく除去する。

最も重要な兆候及び症状

- ・特になし

応急措置をする者の保護

- ・汚染された衣類や保護具を取り除く。救助者が有害物質に触れないよう手袋を使用するなど注意する。

医師に対する特別注意事項

- ・必要に応じて、製品ラベル、SDS(本書)を見せる。

5. 火災時の措置

消火剤

- ・粉末消火薬剤、水溶性液体用泡消火薬剤、二酸化炭素、砂、霧状水

使ってはならない消火剤

- ・特になし

火災時の特有の危険有害性

- ・特になし

特有の消火方法

- ・消火作業は、可能な限り風上から行なう。
- ・関係者以外は安全な場所に退去させる。
- ・周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移す。
- ・火災発生場所の周辺に関係者以外の立ち入りを禁止する。
- ・周囲の設備などの輻射熱による温度上昇を防止するため、水スプレーにより周辺を冷却する。
- ・消火のための放水等により、環境に影響を及ぼす物質が流出しないよう適切な措置を行う。
- ・容器が高温で破裂する恐れがあるので消火活動には十分距離をとる。

消火を行う者の保護

- ・消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク)を着用する。
- ・消火活動は風上から行い、有毒なガスの吸入を避ける。状況に応じて呼吸保護具を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置

- ・屋内の場合、処理が終わるまで十分に換気を行う。
- ・漏出時の処理を行う際には、必ずゴム手袋、保護眼鏡、保護衣等を着用すること。
- ・漏出した場所の周辺に、ロープを張るなどして関係者以外の立入を禁止する
- ・作業の際には適切な保護具を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。
- ・こぼれた場所はすべりやすいために注意する。
- ・作業の際には保護具(必要に応じてガスマスク)を着用し、飛沫等が皮膚に付着したり、粉塵、ガスを吸入しないようにする。

- ・風上から作業し、風下の人を退避させる。
- ・着火した場合に備えて、消火用器材を準備する。
- ・多量の場合、人を安全に待避させる。

環境に対する注意事項

- ・流出した製品が河川等に排出され、環境への影響を起こさないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

- ・少量の場合は、吸着剤(おがくず・土砂・ウエス等)で吸着させ取り除いた後、残りをウエス、雑巾等によく拭き取り、密閉できる空容器に回収する。
- ・大量の場合には、盛土で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてから処理する。
- ・回収後の少量の残留分は土砂またはおがくず等に吸収させる。
- ・付着物、廃棄物などは、関係法規に基づいて処置する。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

吸入・飲用不可

- ・人体に害があるので飲まないこと。
- ・吸入すると、人体に害があるので換気の良い所で使用すること。

技術的対策

- ・使用前に取扱説明書を入手すること。
- ・製品記載の使用上の注意を良く読み、用途以外に使用しないこと。
- ・すべての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。

接触回避

- ・粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
- ・人体に向かって噴射しないこと、また噴射気体を直接吸入しないこと。
- ・眼、皮膚、または衣類に付けないこと。
- ・取り扱い時は、屋外または換気のよい場所で行う。
- ・取り扱い中は、飲食、喫煙を行ってはならない。
- ・取り扱いの都度、容器を密閉する。

保管

適切な保管条件

- ・製品記載の保管条件を読み、適切に保管する事。
- ・容器を密栓する事。
- ・日光から遮断し、40℃を超える温度に暴露しないこと。
- ・耐腐食性あるいは耐腐食性内張りのある容器に保管すること。
- ・涼しい所、換気の良い場所で保管すること。
- ・金属容器の場合、湿気の多い所、水周りなど容器が腐食しやすい場所におかないこと。
- ・品質保持期限を超えて保管をしないこと。

安全な容器包装材料

- ・特になし

8. ばく露防止及び保護措置

設備対策

- ・リスクアセスメントの結果にしたがい、適切なばく露防止措置を講じる。
- ・労働安全衛生法(有機溶剤中毒予防規則)に該当する場合は、法令に沿った設備を設置する。
- ・屋内で使用する場合は、全体に換気をする。換気の悪い場所や煙やミスト、蒸気が発生する場合は局所排気装置を設ける。

許容濃度等

エチレングリコール

管理濃度：	設定なし
許容濃度(日本産業衛生学会)：	設定なし
許容濃度(ACGIH)：	TLV-STEL 100mg/m ³ (吸引性エアロゾル)
厚生労働大臣が定める濃度基準値(8時間)：	10ppm
厚生労働大臣が定める濃度基準値(短時間)：	50ppm

保護具

呼吸用保護具

- ・リスクアセスメントに基づいた適切な保護マスクや呼吸用保護具を着用する。
- ・必要に応じて保護マスクや呼吸器用保護具を着用する。
- ・保護マスク：必要に応じて防じんマスク、防毒マスク、有機溶剤用の防毒マスク等を着用する。

手の保護具、皮膚及び身体の保護具

- ・リスクアセスメントに基づいた適切な保護手袋、保護衣(長袖作業服など)を着用する。
- ・必要に応じて保護手袋、保護衣(長袖作業服など)を着用する。
- ・保護手袋：必要に応じて耐溶剤性手袋、ビニール手袋等を着用すること。

眼、顔面の保護具

- ・リスクアセスメントに基づいた適切な保護めがね、保護面を着用する。
- ・必要に応じて保護眼鏡を着用すること。
- ・保護眼鏡(普通眼鏡型)：必要に応じて、ゴーグル型、保護面等を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態：	液体
色：	淡黄色
臭い：	データなし
融点/凝固点：	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲：	データなし
可燃性：	該当しない
爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界：	データなし
引火点：	データなし
自然発火点：	データなし
分解温度：	データなし
pH：	7.0
動粘性率：	データなし
溶解度：	水に可溶
オクタノール/水分配係数：	データなし
蒸気圧：	データなし
密度及び/又は相対密度：	1.040
相対ガス密度：	データなし
粒子特性：	データなし
その他のデータ：	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性：	通常の手扱いにおいては安定である。
危険有害反応性の可能性：	特になし
避けるべき条件：	特になし
混触危険性物質：	特になし
危険有害な分解生成物：	特になし
その他：	特になし

11. 有害性情報

エチレングリコール

急性毒性(経口) :	区分に該当しない
急性毒性(経皮) :	区分に該当しない
急性毒性(吸入:ガス) :	区分に該当しない(分類対象外)
急性毒性(吸入:蒸気) :	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト) :	区分 4
皮膚腐食性/刺激性 :	区分 2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 :	区分 2B
呼吸器感作性 :	分類できない
皮膚感作性 :	分類できない
生殖細胞変異原性 :	分類できない
発がん性 :	分類できない
生殖毒性 :	分類できない
特定標的臓器毒性(単回ばく露) :	区分 1(中枢神経系、血液系、腎臓)
	区分 3(気道刺激性、麻酔作用)
特定標的臓器毒性(反復ばく露) :	分類できない
誤えん有害性 :	分類できない

12. 環境影響情報

エチレングリコール

水生環境有害性短期(急性) :	区分に該当しない
水生環境有害性長期(慢性) :	区分に該当しない
オゾン層への有害性 :	分類できない

13. 廃棄上の注意

- ・ 廃棄する際は、中身を使いきってから、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に委託処理する。
- ・ 容器、包装等の分別可能なものはリサイクル処理を行ってください。

14. 輸送上の注意

国際規制

国連番号 :	非該当
国連分類 :	非該当
包装等級 :	非該当
マルポール条約における海洋汚染物質の判定 :	非該当

国内規制

容器イエローラベル :	非該当
-------------	-----

輸送の特定の安全対策及び条件

- ・ 容器の破損、漏れがないことをたしかめる。
- ・ 荷くずれ防止を確実に行う。
- ・ 該当法令に従い、包装、表示、輸送を行う。
- ・ 直射日光を避ける。
- ・ 水漏れ厳禁。
- ・ 横積み厳禁。
- ・ 夏場の輸送時には、熱い鉄板、地面等の上に直接置かないこと。
- ・ 輸送容器は衝撃を与えないように、ていねいに取扱う。転倒したり、激突させたりしない。

15. 適用法令

火薬類取締法

対象外

高压ガス保安法

対象外

消防法

消防法上の非危険物

毒物及び劇物取締法(毒劇物取締法)

非該当 含有しないもしくは閾値未満、混合物 等

労働安全衛生法

名称等を表示すべき危険物及び有害物 : エチレングリコール

名称等を通知すべき危険物及び有害物 : エチレングリコール

リスクアセスメント : リスクアセスメント対象物に該当する

濃度基準値設定対象物質 : エチレングリコール

がん原生物質 : 非該当

皮膚等障害化学物質 : 非該当

有機溶剤中毒予防規則 : 非該当 : 含有しないもしくは閾値以下

特定化学物質 管理第2類物質・特定管理物質 : 非該当 含有しないもしくは閾値未満 等

特定化学物質の環境への排出量の把握及び管理の改善の促進に関する法律(化管法、PRTR 法)

非該当

16. その他の情報

引用文献

- ・ JIS Z 7253 : 2025 GHS に基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート (SDS)
- ・ GHS 分類結果データベース (独立行政法人製品評価技術基盤機構ホームページ)
- ・ 中央労働災害防止協会安全衛生情報センターホームページ
- ・ 15107の化学製品(化学工業日報社)
- ・ JACA(日本オートケミカル工業会)編集:化学物質管理データベース
- ・ オートケミカル製品のための製品安全データシート作成指針改訂版 (日本オートケミカル工業会)
- ・ 危険物船舶運送及び貯蔵規則 (海文堂)
- ・ 産業中毒便覧 (医歯薬出版株式会社)
- ・ 化学品の分類及び表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂10版
- ・ 事業者向け GHS 分類ガイダンス第2版(平成23年3月)経済産業省
- ・ GHS 対応ガイドライン ラベル及び表示・安全データシート作成指針(日本化学工業会)

注意

注意製品安全データシートは、危険有害な化学製品について、安全な取り扱いを確保するための参考情報として、取り扱う事業者提供されるものです。取り扱う事業者は、これを参考として、自らの責任において、個々の取り扱いなどの実態に応じた適切な処置を講ずることが必要であることを理解した上で、活用されるようお願いいたします。従って、本データシートそのものは、安全の保証書ではありません。